西部地区五大学連携共同開講科目「博多学」

１．「博多学」とは

共同開講科目「博多学」は、九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡歯科大学、福岡大学の五つの大学で構成する西部地区五大学連携懇話会において、五大学がそれぞれの得意分野を持ち寄り、ふるさとを愛する心を育む教養教育を実施したいという趣旨のもと、平成２２年度から開講され、これまで１０００名超の学生が履修してきました。

「博多学」は、学生の皆さんが、今まさに学んでいる土地が、どのような場であるのかを学び、地域に関する知識（歴史、文化など）や、地域で行われていること（習慣など）を知ることで、地域に対する誇りを再確認することにつなげ、さらにその誇りをグローバルに生きる「国際人」の自信としてもらうことを目的としています。そのため、この科目では①「博多」の魅力を自分の言葉で伝えることができるようになること、②地域を見つめる際にいろいろな視点が存在することを知ること、を学習目標としています。

また、「博多学」では五大学の学生同士が同じ場所で学んで議論し、多様な見方に触れることができるのも大きな魅力の一つです。この機会に是非「博多学」を履修してみてください。

２.「博多学」の履修形態

＜令和７年度（例）＞

博多学の履修は、現地見学と集中講義の二つで構成されています。受講生は全４回実施される現地見学についていずれかの１回へ参加するとともに、夏季３日間に開講される集中講義を受けることになります（いずれもレポートを課します）。また、最後に最終課題として、この「博多学」で何を学んだかについて、レポートを課します。

現地見学

５月１０日（土）

- 鴻臚館跡遺跡跡展示館
- 福岡市博物館

鴻臚館

５月１７日（土）

- 板付遺跡弥生館
- 福岡アジア美術館

板付遺跡弥生館

５月３１日（土）

- 博多町家ふるさと館
- 西南大博物館
- 聖書植物園
- 元寇防塁跡

元寇防塁跡

６月７日（土）

- 紅葉八幡宮
- 福岡国際会議場

紅葉八幡宮

※どれか１日を選択して受講し、レポートを提出

＋

集中講義

８月２０日（水）

- オリエンテーション
- 古地図の中の福岡・博多
- 博多の郷土料理と食文化①
- 博多の郷土料理と食文化②

８月２１日（木）

- ①博多の水資源と水循環
- ②博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」
- 「国際貿易都市」としての中世博多

８月２２日（金）

- 博多に息づくスポーツ・身体文化ー住吉神社の相撲と流鏑馬
- 博多・福岡の文学に見る方言ー昔話・絵本を中心にー
- グループディスカッション

＋

最終課題（レポート）

３．これまでの「博多学」

【実施日程】

実施年度	実　　施　　日　　程
令和７年度	実地見学：５/１０（土）、５/１７（土）、5/３１（土）、６/７（土） 集中講義：８/２０(水)、８/２１(木)、8/２２（金）計１３時間３０分
令和６年度	実地見学：４/２７（土）、５/１１（土）、5/１８（土）、６/１（土） 集中講義：８/２０(火)、８/２１(水)、8/２２（木）計１３時間３０分
令和５年度	実地見学：４/２２（土）、５/１３（土）、5/２０（土）、６/３（土） 集中講義：８/１７(木)、８/１８(金)、8/２１（月）計１３時間３０分
令和４年度	実地見学：４/２３（土）、５/７（土）、5/14（土）、５/２８（土） 集中講義：８/１７(水)、８/１８(木)、8/１９（金）計１３時間３０分
令和３年度	実地見学：４/２４（土）、５/８（土）、5/15（土）、５/２９（土） 集中講義：８/１７(火)、８/１８(水)、8/１９（木）計１３時間３０分
令和２年度	実地見学：実施なし、レポート課題に変更 集中講義：8/19（水）、8/20（木）、8／21（金）計 12 時間 ※オンライン授業のためグループディスカッションは実施なし
令和元年度	実地見学：４/２０（土）、5/11（土）、5/18（土）、６/１（土） 集中講義：８/１９(月)、８/２０(火)、 8/２１（水）計１３時間３０分
平成３０年度	実地見学：4/21（土）、5/16（土）、5/19（土）、5/26（土） 集中講義：８/２１(火)、８/２２(水)、 8/２３（木）計１３時間３０分
平成 29 年度	実地見学：4/２２（土）、5/１３（土）、5/２０（土）、5/２７（土） 集中講義：8/１７（木）、8/２３（水）　計 13 時間 30 分
平成 28 年度	実地見学：4/２３（土）、5/７（土）、5/１４（土）、5/２１（土） 集中講義：8/２２（月）～8/２４（水）　計 13 時間 30 分
平成２７年度	実地見学：4/25（）、5/９（土）、5/16（土）、5/23（土） 集中講義：8/17（月）～8/１９（水）　計 13 時間 30 分
平成 26 年度	実地見学：4/26（土）、5/10（土）、5/17（土）、5/24（土） 集中講義：8/18（月）～8/20（水）　計 13 時間 30 分

【実地見学】

実施年度	実　地　見　学　場　所
令和７年度	①鴻臚館跡遺跡跡展示館・福岡市博物館、②板付遺跡弥生館、福岡アジア美術館、③福岡商工会議所、博多町家ふるさと館、聖書植物園、元寇防塁跡、④紅葉八幡宮、福岡国際会議場
令和６年度	①鴻臚館跡遺跡跡展示館・福岡市博物館、②板付遺跡弥生館、博多の食と文化の博物館「ハクハク」、③博多町家ふるさと館、西南大博物館、元寇防塁跡、④紅葉八幡宮、福岡アジア美術館
令和５年度	①鴻臚館跡遺跡跡展示館・福岡市博物館、②ハクハク・筥崎宮、③福岡商工会議所・博多町家ふるさと館・ドージャー記念館・元寇防塁跡、④紅葉八幡宮・はかた伝統工芸館
令和４年度	①鴻臚館跡遺跡跡展示館・福岡市博物館、②ハクハク・筥崎宮、③福岡商工会議所・博多町家ふるさと館・ドージャー記念館・元寇防塁跡、④紅葉八幡宮・はかた伝統工芸館
令和３年度	①鴻臚館跡遺跡跡展示館・福岡市博物館、②筥崎宮（遠隔教材に変更）・ハクハク、③はかた伝統工芸館・博多町家ふるさと館・ドージャー記念館・元寇防塁跡、④東林寺・紅葉八幡宮・高取焼味楽窯
令和２年度	新型コロナウイルス対策により、実施なし。レポート課題に変更。 ①福博の歴史と文化を体験するイントロダクション、②博多伝統行事・祭礼と食文化を体験する、③福博における外来文化の受容・洗練および伝承を体験する、 ④福岡・博多の茶の文化を体験する
令和元年度	①鴻臚館・福岡市博物館、②筥崎宮・博多の食と文化の博物館（ハクハク）③櫛田神社・西南学院大学博物館・元寇防塁跡、④東林寺・紅葉八幡宮・高取焼窯元
平成３０年度	①鴻臚館・福岡市博物館、②櫛田神社・西南学院大学博物館・元寇防塁跡、③筥崎宮・博多の食と文化の博物館（ハクハク）、④東林寺・紅葉八幡宮・高取焼窯元
平成 29 年度	①鴻臚館・福岡市博物館、②筥崎宮・東林寺、③櫛田神社・博多町家ふるさと館・はかた伝統工芸館・西南学院大学博物館・元寇防塁跡、④紅葉八幡宮・高取焼窯元、博多の食と文化の博物館（ハクハク）
平成 28 年度	①鴻臚館・博多の食と文化物館、②筥崎宮・福岡市博物館、③博多町家ふるさと館・はかた伝統工芸館・東林寺、④西南学院大学博物館・元寇防塁跡・紅葉八幡宮・高取焼窯元
平成 27 年度	①鴻臚館・福岡市博物館、②博多町家ふるさと館・はかた伝統工芸館・東林寺筥崎宮・福岡市博物館、③筥崎宮・博多の食と文化物館、④西南学院大学博物館・元寇防塁跡・紅葉八幡宮・高取焼窯元
平成 26 年度	①鴻臚館・福岡市博物館、②はかた伝統工芸館・博多町家ふるさと館・東長寺、③筥崎宮・博多の食と文化物館、④西南学院大学博物館・元寇防塁跡・紅葉八幡宮・高取焼窯元

【集中講義】

＜令和７年度＞

講　　義　　内　　容	
宮崎 克則　教授 （西南学院大学）	古地図の中の福岡・博多
	２００年ほど前に作られた福岡・博多の古地図をもとに、福岡と博多の成り立ちの違い、その後の町の展開を理解する。
松隈 美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化①
	古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞①（90 分） 郷土料理を生み出す要素 １．気候・風土　２．歴史　３．宗教　４．教育
松隈 美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化②
	＜博多の郷土料理と食文化＞② ・博多の正月料理　・博多の四季（春・夏・秋・冬）の料理 ・博多の祭りと料理　・博多の朝食とおもてなし料理 ・昔ながらのおやつ　・郷土料理とは
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	①博多の水資源と水循環
	福岡市内の水資源について考察し，福岡市の弱点である飲み水に関して、どのようにして福岡市民が水を得ているかを見つめなおし、流域治水を達成することで、水資源と洪水の両方を一挙に解決する方策を講義の中で考えていく。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	② 博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」
	福岡市民が使った水が最終的に流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。
荒木 和憲　准教授 （九州大学）	「国際貿易都市」としての中世博多
	中世の日本は東アジア諸地域と活発に交流していた。博多は「国際貿易都市」と評されることが多いが、その様相は時代によって異なる。11 世紀後半～13 世紀後半は中国の貿易船が来航する場だったが、13 世紀末～16 世紀前半には日本の貿易船が中国・朝鮮・琉球へ渡航するための基地、かつ琉球・東南アジアの貿易船が来航する場へと変化した。そして 16 世紀半ばには、再び中国の貿易船が来航するようになった。こうした博多の「国際貿易都市」としての変遷を、福岡市内に所在する文化財などを素材として考える。
小木曽 航平　准教授 （九州大学）	博多に息づくスポーツ・身体文化ー住吉神社の相撲と流鏑馬
	住吉神社の秋の例大祭では「相撲」と「流鏑馬」が奉納される。その起源は神功皇后が渡韓した際、住吉大神の力で無事に帰還できたことに感謝して始めたとされる。本講義では、スポーツ人類学の視点から、住吉神社と相撲及び流鏑馬との関係を紐解いていくと共に、今なおこの地で行われている少年相撲大会、流鏑馬行事、横綱奉納土俵入りなどの伝統行事の様子を紹介する。
原田 大樹　准教授 （西南学院大学）	博多・福岡の文学に見る方言―昔話・絵本を中心に―
	日本各地にはそれぞれの土地に伝承される文学がある。昔話がその一つである。世界観は、その土地の文化やそこに住む人々の生活・思想などが描かれている。 本講義では、博多・福岡の文学、とりわけ昔話・絵本を中心に取り上げ、昔話自体を継承する一人となることを目標としたい。また、そこで使用されている会話文などから、福岡方言の特徴についても考えていく。

＜令和６年度＞

講　　義　　内　　容	
藤永 豪　教授 （西南学院大学）	地形図にみる博多・福岡の地域変容
	現在、国土交通省国土地理院が発行する地形図は、国土全体をカバーするとともに、明治期から作成され、市街地の拡大や縮小、交通の発達、土地利用や自然環境の変容などについて視覚的に示してくれる有用な空間データである。本講義では、こうした地形図を読み解きながら、博多・福岡の地域的特徴について解説する。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	①博多の水資源と水循環
	福岡市民が使った水が最終的に流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	②博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」
	福岡市内の水資源について考察し，福岡市の弱点である飲み水に関して、どのようにして福岡市民が水を得ているかを見つめなおし、流域治水を達成することで、水資源と洪水の両方を一挙に解決する方策を講義の中で考えていく。
木島 孝之　助教 （九州大学）	「唐入り」の時 ―豊臣政権による博多町復興と筑前立花山城大改修の史的意味―
	豊臣政権は九州平定戦の終了と同時に、戦火で荒れた博多町に「太閤町割」を施して復興を進めた。そして、国内最大の巨封大名毛利氏の一門で執政の小早川隆景を筑前国主として九州に強引に入封させ、同氏の居城に指定した立花山城（戦国期以来の大友氏の筑前国支配の最大拠点）を当期最新鋭の「織豊系縄張り」技術で大改修させた。この一連の挙動は、秀吉が関白就任直後の天正 13 年９月に近臣一柳直末に示した「唐入り」構想が、大言壮語と思われた段階から現実味を持った作戦行動として、まさに始動段階に入ったことを意味した。
松隈 美紀　教授 （中村学園大学）	①博多の郷土料理と食文化
	古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞①（90 分） 郷土料理を生み出す要素 １．気候・風土　２．歴史　３．宗教　４．教育
松隈 美紀　教授 （中村学園大学）	②博多の郷土料理と食文化
	＜博多の郷土料理と食文化＞② ・博多の正月料理　・博多の四季（春・夏・秋・冬）の料理 ・博多の祭りと料理　・博多の朝食とおもてなし料理 ・昔ながらのおやつ　・郷土料理とは
伊東 未来　准教授 （西南学院大学）	戦争・ジェンダー・負の遺産―引き揚げ港・博多から考える
	博多港はかつて、第二次世界大戦終戦時に、アジア諸国を中心とした海外に残っていた日本人が帰国する「引き揚げ」の、最大の玄関口のひとつであった。 この講義では、引き揚げ港・博多やそれに関連する二日市保養所などの当時の施設の歴史を学ぶことを通じて、戦争とジェンダー、負の遺産や記憶の継承の困難などについて、履修者と共に考える。
青木 博史　教授 （九州大学）	変容する博多方言
	博多方言といえば，「～バイ／～タイ／～クサ」などが有名ですが，若い世代は使っていません。だとすると，博多方言は消滅していくのでしょうか。実は，伝統的な方言が使用されなくなる一方で，多くの新しい言い方も生まれています。本講義では，方言の「変容」という観点から，その動態を観察してみたいと思います。

＜令和５年度＞

講　　義　　内　　容	
藤永　豪　教授 （西南学院大学）	地形図にみる博多・福岡の地域変容
	現在、国土交通省国土地理院が発行する地形図は、国土全体をカバーするとともに、明治期から作成され、市街地の拡大や縮小、交通の発達、土地利用や自然環境の変容などについて視覚的に示してくれる有用な空間データである。本講義では、こうした地形図を読み解きながら、博多・福岡の地域的特徴について解説する。
荒木　和憲　准教授 （九州大学）	11 世紀の日宋貿易―鴻臚館から博多へ―
	説話集の『今昔物語集』（12 世紀初）と『宇治拾遺物語』（13 世紀初）には、筥崎宮の大夫（神主）である秦則重とその祖父秦貞重が登場する。いずれも 11 世紀前半～半ばごろに実在した人物である。説話によると、秦貞重は博多に来航してきた「唐人」（宋の商人）と財物の貸借・取引を行っていたという。本講義では、説話と史実との接点を探りつつ、11 世紀の博多湾岸地域（鴻臚館・博多）で営まれた日宋貿易の様相を考えたい。
木下　寛子　准教授 （九州大学）	博多の道を歩く：他者と出会い、暮らす場所
	歴史も深く、見どころも多く、楽しめるごはんもたくさんある博多の街ですが、この講義では今の博多でのたあいのない暮らしのことを考える試みをしてみたいと思います。博多の道を歩く時（車や自転車、バスや地下鉄で走り抜けるのでもなく）、少し注意深くなって目を凝らし、耳をそばだてると、この場所で暮らす私たちのこと、私たちが暮らす場所のことがよく見えてくるようになるのです。
伊東 未来　准教授 （西南学院大学）	戦争・ジェンダー・負の遺産―引き揚げ港・博多から考える
	博多港はかつて、第二次世界大戦終戦時に、アジア諸国を中心とした海外に残っていた日本人が帰国する「引き揚げ」の、最大の玄関口のひとつであった。 この講義では、引き揚げ港・博多やそれに関連する二日市保養所などの当時の施設の歴史を学ぶことを通じて、戦争とジェンダー、負の遺産の継承の課題などについて履修者と共に考えたい。
松隈 美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化①
	本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞①（90 分） 郷土料理を生み出す要素 １．気候・風土　２．歴史　３．宗教　４．教育
松隈 美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化②
	＜博多の郷土料理と食文化＞②（90 分） ・博多の正月料理　　・博多の四季（春・夏・秋・冬）の料理 ・博多の祭りと料理　・博多の朝食とおもてなし料理 ・昔ながらのおやつ　・郷土料理とは
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	①博多の水資源と水循環
	福岡市内の水資源について考察し，福岡市の弱点である飲み水に関して、どのようにして福岡市民が水を得ているかを見つめなおし、流域治水を達成することで、水資源と洪水の両方を一挙に解決する方策を講義の中で考えていく。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	②博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」

	福岡市民が使った水が最終的に流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。

＜令和４年度＞

講　　義　　内　　容	
松隈 美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化①
	本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞①（90 分） 郷土料理を生み出す要素 １．気候・風土　２．歴史　３．宗教　４．教育
川上 具美　教授 （西南学院大学）	大宰府と「日本」誕生の歴史
	いつから我が国は「日本」という名称を使うようになったのでしょうか。中学や高校において日本の歴史を学ぶなかで、この点は置き去りにされる傾向があります。皆さんは、「日本」という呼称のはじまりについて、どのように学んでこられたでしょうか。本講義では、「日本」という名称を使うようになった時代について、大宰府の歴史をもとに、受講者の皆さんと一緒に考えて行きます。
松隈 美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化②
	＜博多の郷土料理と食文化＞②（90 分） ・博多の正月料理　　・博多の四季（春・夏・秋・冬）の料理 ・博多の祭りと料理　・博多の朝食とおもてなし料理 ・昔ながらのおやつ　・郷土料理とは
尹 芝惠（ユン　ジへ） 准教授 （西南学院大学）	福岡藩と朝鮮通信使 - 江戸時代の国際交流
	江戸時代の日本には、朝鮮から「朝鮮通信使」という外交使節団が定期的に訪れ、外交だけではなく文化交流も活発に行っていた。福岡藩は、相島（糟屋郡新宮町）で朝鮮通信使を接待している。この講義では、その接待の具体的な内容を取り上げ、当時の福岡（博多）での交流の実態を明らかにすることで、江戸時代の国際交流の意義と福岡藩の役割について考察したい。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	博多の水資源と水循環
	この１限目の講義では、福岡市内の水資源について考察し，福岡市の弱点である水に関して、どのようにして福岡市民が水を得ているかを考察しながら、解決策を講義の中で考えていく。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」
	この２限目の講義では、福岡市民が使った水が最終的に流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。
木島 孝之　准教授 （九州大学）	房州堀の構築にみる近世博多の再編と「双子都市 福博」の創出
	博多町の南辺を限る「房州堀」は戦国期大友氏の構築とされているが、これは考古・文献資史料の不十分な解釈による説である。実は、黒田氏入国期に博多町を福岡城の外曲輪の一つに再編・編入する際、織豊系城郭の縄張り技術を用いて構築（大改修）したのである。しかも、その背景には、既得権を堅持したい朝鮮出兵特需の“落とし子“ともいうべき博多門閥豪商衆と、巨大資本を居城下に一元支配したい新封大名黒田氏のシビアな権力闘争があり、これが「双子都市 福博」創出の出発点ともなった。
宮本 一夫　教授 （九州大学）	遺跡からみた古代・中世の博多
	古墳時代の那津官家、中世の博多津唐房や鎮西探題などを始めとする博多遺跡群か

	ら、博多が対外交流や対外交易の拠点として栄えてきた歴史を振り返ることができる。さらに、古代の博多と鴻臚館・大宰府、中世の博多と箱崎遺跡、あるいは元寇防塁遺跡と関係づけながら、古代～中世の博多の歴史的位置づけを遺跡から考えてみたい。

＜令和３年度＞※オンライン授業

講　　義　　内　　容	
松隈美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化①
	本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞①（90 分） 郷土料理を生み出す要素 １．気候・風土　２．歴史　３．宗教　４．教育
松隈美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化②
	＜博多の郷土料理と食文化＞②（90 分） ・博多の正月料理　　・博多の四季（春・夏・秋・冬）の料理 ・博多の祭りと料理　・博多の朝食とおもてなし料理 ・昔ながらのおやつ　・郷土料理とは
末光 弘和 准教授 （九州大学）	九州・アジアの都市環境と建築デザイン～
	九州は、蒸暑地域である東南アジアの気候に近く、近年は、ヒートアイランドや大雨による水害・土砂災害など九州における都市環境は、地球全体の気候変動と共に劇的に変化している。このような状況の中で、我々はどのような建築をデザインしていくべきなのだろうか。実例をもとに講義を行う。
遠城 明雄　教授 （九州大学）	博多と祭礼―博多祇園山笠と地域社会―
	博多祇園山笠は、毎年７ 月に福岡市博多地区の櫛田神社で執り行われる奉納神事です。諸説ありますが、悪疫退散や地域安寧を祈願するために始められたと言われており、その歴史は 700 年以上になります。山笠行事のひとつの特徴として、複数の町内の集合体である「流」という地縁組織によって運営されている点があり、この組織は現在でも住民の日常生活の基盤となっています。ただし、多くの祭礼と同様に、山笠も時代とともに変化を遂げてきました。この講義では、特に明治以降の博多祇園山笠の変遷について解説したいと思います。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	博多の水資源と水循環
	この１限目の講義では、福岡市内の水資源について考察し，福岡市の弱点である水に関して、どのようにして福岡市民が水を得ているかを考察しながら、解決策を講義の中で考えていく。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」
	この２限目の講義では、福岡市民が使った水が最終的に流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。
尹芝惠（ユン　ジへ） 准教授 （西南学院大学）	福岡藩と朝鮮通信使 - 江戸時代の国際交流
	江戸時代の日本には、朝鮮から「朝鮮通信使」という外交使節団が定期的に訪れ、外交だけではなく文化交流も活発に行っていた。福岡藩は、相島（糟屋郡新宮町）で朝鮮通信使を接待している。この講義では、その接待の具体的な内容を取り上げ、当時の福岡（博多）での交流の実態を明らかにすることで、江戸時代の国際交流の意義と福岡藩の役割について考察したい。
藤永 豪　教授	地形図にみる博多・福岡の地域変容

（西南学院大学）	現在、国土交通省国土地理院が発行する地形図は、国土全体をカバーするとともに、明治期から作成され、市街地の拡大や縮小、交通の発達、土地利用や自然環境の変容などについて視覚的に示してくれる有用な空間データである。本講義では、こうした地形図を 読み解きながら、博多・福岡の地域的特徴について解説する。

＜令和２年度＞　※オンライン授業

講　　義　　内　　容	
藤永　豪　准教授 （西南学院大学）	地形図にみる博多・福岡の地域変容
	現在、国土交通省国土地理院が発行する地形図は、国土全体をカバーするとともに、明治期から作成され、市街地の拡大や縮小、交通の発達、農業的土地利用の広がり方、自然環境の変化などを視覚的に示してくれる有用な空間データである。本講義では、こうした地形図を読み解きながら、博多・福岡の地域的特徴について解説する。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	博多の水資源と水循環
	この１限目の講義では、福岡市内の水資源について考察し，福岡市の弱点である水に関して、どのようにして福岡市民が水を得ているかを考察しながら、解決策を講義の中で考えていく。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」
	この２限目の講義では、福岡市民が使った水が最終的に流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。
宮崎　克則　教授 （西南学院大学）	1800 年ころ 古地図のなかの福岡・博多
	福岡藩家老の三奈木黒田家に伝来した「福岡城下町・博多・近隣古図」は、縦 223 ㎝×横 226 ㎝の大きさであり、江戸時代後半の福岡・博多の様子を描いています。これには、和歌なども書き込まれ、福岡・博多の歴史や文化に関する豊富な記述があり、侍屋敷には武士の名前、さらに一部には石高や家紋まで書き込まれています。 　博多は中世期より中国や朝鮮との貿易を通して栄え、島井宗室や神屋宗湛など多くの商人を生み出す貿易都市として繁栄していました。福岡は、慶長５年（1600）の関ヶ原戦の後、豊前中津から移ってきた黒田長政によって建設された新都市です。絵図を読み解き、併せて福岡・博多の変遷を考えていきます。
松隈美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化①
	本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞①（90 分） 郷土料理を生み出す要素　１．気候・風土　２．歴史　３．宗教　４．教育
松隈美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化②
	＜博多の郷土料理と食文化＞②（90 分） ・博多の正月料理　　・博多の四季（春・夏・秋・冬）の料理 ・博多の祭りと料理　・博多の朝食とおもてなし料理 ・昔ながらのおやつ　・郷土料理とは
川平敏文　准教授 （九州大学）	「博多小女郎波枕」を読む
	近松門左衛門作の浄瑠璃『博多小女郎波枕』を紹介する。本作は享保三年（一七一八）に上演されたもので、その前月に大坂西町奉行所で判決が出たばかりの、密貿易事件を題材とした際物的作品である。後続の浄瑠璃や歌舞伎にも影響を与え、「毛剃」の名で親しまれている。 　本講義では、本作のモデルとなった実際の事件との関係、十八世紀初頭における「西国」表象、歌舞伎への展開の様相などを見ていく。
尹芝恵（ユン　ジ	福岡藩と朝鮮通信使 - 江戸時代の国際交流

へ）准教授 （西南学院大学）	江戸時代の日本には、朝鮮から「朝鮮通信使」という外交使節団が定期的に訪れ、外交だけではなく文化交流も活発に行っていた。福岡藩は、相島（糟屋郡新宮町）で朝鮮通信使を接待している。この講義では、その接待の具体的な内容を取り上げ、当時の福岡（博多）での交流の実態を明らかにすることで、江戸時代の国際交流の意義と福岡藩の役割について考察したい。
黒瀬武史　准教授 （九州大学）	博多駅前はこうして生まれた
	近年、再開発の動きが活発化している博多駅とその周辺地区は、昭和 30 年代に始まる大規模な都市改造によって生まれた。博多駅地区土地区画整理事業を中心に、新たな博多の玄関口が生まれた過程を都市デザインの観点から議論したい。

＜令和元年度＞

講　　義　　内　　容	
藤永　豪　准教授 （西南学院大学）	地形図にみる博多・福岡の地域変容
	現在、国土交通省国土地理院が発行する地形図は、国土全体をカバーするとともに、明治期から作成され、市街地の拡大や縮小、交通の発達、農業的土地利用の広がり方、自然環境の変化などを視覚的に示してくれる有用な空間データである。本講義では、こうした地形図を読み解きながら、博多・福岡の地域的特徴について解説する。
髙山　倫明　教授 （九州大学）	「てつはう」の音韻史
	蒙古襲来絵詞に、元軍の使用した兵器が鳥飼辺りで炸裂する様子が画かれている。傍に「てつはう」と記されているが、それはどんな音だったのだろう。といっても炸裂音ではなく、文永の役（1274 年）当時の言語音（発音）の話。その４つの文字列を軸に、日本語表記史・音韻史、そして方言史の一端に触れ、合理的な音価推定の方法を一緒に考えてみたい。
高野　和良　教授 （九州大学）	博多に暮らす人々の地域意識
	博多を含む福岡市の市民を対象とした各種の社会調査結果をもとに、とりわけ博多の「屋台」に対する評価などを取り上げ、博多（福岡市）に暮らす人々の地域意識の状況を紹介する。これらを手がかりとして、博多に暮らすことの意味について考えたい。
宮崎　克則　教授 （西南学院大学）	1800 年ころ 古地図のなかの福岡・博多
	福岡藩家老の三奈木黒田家に伝来した「福岡城下町・博多・近隣古図」は、縦 223 ㎝×横 226 ㎝の大きさであり、江戸時代後半の福岡・博多の様子を描いています。これには、和歌なども書き込まれ、福岡・博多の歴史や文化に関する豊富な記述があり、侍屋敷には武士の名前、さらに一部には石高や家紋まで書き込まれています。 　博多は中世期より中国や朝鮮との貿易を通して栄え、島井宗室や神屋宗湛など多くの商人を生み出す貿易都市として繁栄していました。福岡は、慶長５年（1600）の関ヶ原戦の後、豊前中津から移ってきた黒田長政によって建設された新都市です。絵図を読み解き、併せて福岡・博多の変遷を考えていきます。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	博多の水資源と水循環
	この１限目の講義では、福岡市内の水資源について考察し，福岡市の弱点である水に関して、どのようにして福岡市民が水を得ているかを考察しながら、解決策を講義の中で考えていく。
渡辺 亮一　教授 （福岡大学）	博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」
	この２限目の講義では、福岡市民が使った水が最終的に流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。
松隈美紀　教授	博多の郷土料理と食文化①

（中村学園大学）	本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞①（90 分） 郷土料理を生み出す要素 １．気候・風土　２．歴史　３．宗教　４．教育
	博多の郷土料理と食文化②
	＜博多の郷土料理と食文化＞②（90 分） ・博多の正月料理　　・博多の四季（春・夏・秋・冬）の料理 ・博多の祭りと料理　・博多の朝食とおもてなし料理 ・昔ながらのおやつ　・郷土料理とは

＜平成３０年度＞

講　　義　　内　　容	
松隈美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化①
	本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞①（90 分） 郷土料理を生み出す要素 １．気候・風土　２．歴史　３．宗教　４．教育
	博多の郷土料理と食文化②
	本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞②（90 分） ・博多の正月料理　　・博多の四季（春・夏・秋・冬）の料理 ・博多の祭りと料理　・博多の朝食とおもてなし料理 ・昔ながらのおやつ　・郷土料理とは
渡辺亮一　教授 （福岡大学）	博多の水資源と水循環
	福岡市内の水事情について考察し、福岡市内で毎年のように発生している都市型水害の発生メカニズムとその抑制方法を水資源の観点から見ていきます。また、新たに考案した雨水利用実験住宅について、どの程度の効果を発揮するかについて詳しく説明します。
	博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」
	博多を流れる川がすべて流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。
久保　智之　教授 （九州大学）	博多方言の文法をさぐる
	博多方言と言うと、「～たい」「～ばい」「～と」などの文末詞をはじめ、「ぐらぐらこく」＜内心腹を立てる＞、「なおす」＜しまう＞など、さまざまな語彙が、例として挙げられる。この講義では、方言文法のもつ体系的な側面に着目しながら、言語がいかに整然とした規則性を見せるかを、見てみたい。

岡 幸江　准教授 （九州大学）	博多の公民館とまちづくり
	全国の政令指定都市のなかでも、福岡市の公民館は小学校区に公立館各１館という、戦後公民館理念の典型であるとともに、独特な体制を築いてきました。課題が地域に山積する今、一層の期待を集め新たな展開を遂げています。本講義では特に博多部の公民館の様子に注目しつつ、「公民館があるけん、博多たい！」ともいいうる、まちの陰の主役の姿に注目してみます。
西村 将洋　教授 （西南学院大学）	アジアへの想像力：近代福岡の思想と文学を考える
	福岡から東京へは飛行機で約 2 時間ですが、福岡から韓国ソウルまでは飛行機で 1 時間 30 分、中国の上海へも２時間弱で到着します。福岡は、首都の東京よりも、アジア主要都市の方が近いのです。このアジアとの地理的な近さは、人々のどんな想像力を生み出していたのでしょうか。この講義では、明治期から昭和初期の福岡を舞台に、思想と文学という２つの観点から、国際主義と国粋主義が入り乱れる〈アジア〉のイメージを考察します。
山根明弘　准教授 （西南学院大学）	博多湾周辺の自然（「漂着物学」と「ネコ学」）
	博多湾周辺の海岸には、様々な漂着物が打ち上げられる。それらは、遠く南の島より黒潮によって流れ着いたヤシの実であったり、丸木舟などの異国の人々の生活の道具、アオイガイやウミガメなどの近海の海に棲む生き物たちなど様々である。海岸はいわば、文化的、自然史的な資料が集まった、屋外の博物館のような場所である。前半では漂着物採集の魅力についてお話しする。次に、玄界灘に浮かぶ相島は、人と猫が理想的なかたちで共存をする島として、海外からも注目されている。後半では、演者のノラネコの研究も含めた、相島でのネコ学について、お話しする。

＜平成２９年度＞

講　　義　　内　　容	
松隈美紀　教授 （中村学園大学）	博多の郷土料理と食文化①
	本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞①（90 分） 郷土料理を生み出す要素 １．気候・風土　２．歴史　３．宗教　４．教育
	博多の郷土料理と食文化②
	本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明す

	ることができる事を目的とし、以下の講義を行う。 ＜博多の郷土料理と食文化＞②（90 分） ・博多の正月料理　　・博多の四季（春・夏・秋・冬）の料理 ・博多の祭りと料理　・博多の朝食とおもてなし料理 ・昔ながらのおやつ　・郷土料理とは
渡辺亮一　教授 （福岡大学）	博多（福岡市内）で何故、都市型水害が頻発するのか？その解決方法は？
	福岡市内の水事情について考察し、福岡市内で毎年のように発生している都市型水害の発生メカニズムとその抑制方法を水資源の観点から見ていきます。また、新たに考案した雨水利用実験住宅について、どの程度の効果を発揮するかについて詳しく説明します。
	博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」
	博多を流れる川がすべて流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。
佐伯弘次　教授 （九州大学）	中世の博多と東アジア
	中世（11 世紀～16 世紀）の博多は、国際貿易都市として栄えた。とくに 11 世紀後半の日宋貿易の時代に遺構・遺物が激増するため、この時期に都市化したと考えられている。その後、宋・元・明、高麗・朝鮮、琉球との交易で繁栄した。 こうした都市博多と東アジア諸国との関係を、文献史料や考古資料などから、多面的に考えたい。
宮崎克則　教授 （西南学院大学）	1800 年ころ 古地図のなかの福岡・博多
	福岡藩家老の三奈木黒田家に伝来した「福岡城下町・博多・近隣古図」は、縦 223 ㎝×横 226 ㎝の大きさであり、江戸時代後半の福岡・博多の様子を描いています。これには、和歌なども書き込まれ、福岡・博多の歴史や文化に関する豊富な記述があり、侍屋敷には武士の名前、さらに一部には石高や家紋まで書き込まれています。 博多は中世期より中国や朝鮮との貿易を通して栄え、島井宗室や神屋宗湛など多くの商人を生み出す貿易都市として繁栄していました。福岡は、慶長５年（1600）の関ヶ原戦の後、豊前中津から移ってきた黒田長政によって建設された新都市です。絵図を読み解き、併せて福岡・博多の変遷を考えていきます。
箕浦永子　助教 （九州大学）	明治初頭の博多における社会的結合と町
	博多は、太宰府の外港として成立し、地形の変化を伴いながら都市を形成してきた。この土地の上では、地縁・血縁・職業・宗教・文化など様々な社会的結合が取り結ばれ、近世末までに成熟した都市社会が築かれた。博多において、この社会的結合の基盤を成すのが「町（ちょう）」である。しかし、近世末までの都市社会は明治初頭に再編が試みられる。この実態を講義するとともに、社会的結合と町について考える。
山根明弘　准教授 （西南学院大学）	博多湾周辺の自然（「漂着物学」と「ネコ学」）
	博多湾周辺の海岸には、様々な漂着物が打ち上げられる。それらは、遠く南の島より黒潮によって流れ着いたヤシの実であったり、丸木舟などの異国の人々の生活の道具、アオイガイやウミガメなどの近海の海に棲む生き物たちなど様々である。海岸はいわば、文化的、自然史的な資料が集まった、屋外の博物館のような場所である。前半では漂着物採集の魅力についてお話しする。次に、玄界灘に浮かぶ相島は、人と猫が理想的なかたちで共存をする島として、海外からも注目されている。後半では、演者のノラネコの研究も含めた、相島でのネコ学について、お話しする。

＜平成２８年度＞

講　　義　　内　　容	
宮崎克則　教授	1800 年ころ 古地図のなかの福岡・博多

（西南学院大学）	福岡藩家老の三奈木黒田家に伝来した「福岡城下町・博多・近隣古図」は、縦 223 ㎝×横 226 ㎝の大きさであり、江戸時代後半の福岡・博多の様子を描いています。これには、和歌なども書き込まれ、福岡・博多の歴史や文化に関する豊富な記述があり、侍屋敷には武士の名前、さらに一部には石高や家紋まで書き込まれています。 博多は中世期より中国や朝鮮との貿易を通して栄え、島井宗室や神屋宗湛など多くの商人を生み出す貿易都市として繁栄していました。福岡は、慶長５年（1600）の関ヶ原戦の後、豊前中津から移ってきた黒田長政によって建設された新都市です。絵図を読み解き、併せて福岡・博多の変遷を考えていきます。
松隈美紀　教授 （中村学園大学短期大学部）	博多の郷土料理と食文化①
	福岡市内で食べられている四季のふるさとの味、郷土料理などの歴史や、言葉の意味、作り方と分量などを説明することで、自分の住んでいる町の歴史を理解し、地元の食材の知識や大切さを知ることができ、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明する事ができるようになる事を目的とし、以下の講義を行います。 　博多の正月料理、博多の春の料理、博多の夏の料理、博多のまつりと料理
	博多の郷土料理と食文化②
	福岡市内で食べられている四季のふるさとの味、郷土料理などの歴史や、言葉の意味、作り方と分量などを説明することで、自分の住んでいる町の歴史を理解し、地元の食材の知識や大切さを知ることができ、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明する事ができるようになる事を目的とし、以下の講義を行います。 　博多の秋の料理、博多の冬の料理、博多の朝ご飯、昔ながらのおやつ
岩﨑義則　准教授 （九州大学）	近世初期の博多・福岡と江月宗玩
	堺の豪商・津田宗及の子であり、京都大徳寺住持となった臨済宗の禅僧江月宗玩（1574-1643）をとりあげます。宗玩は、博多崇福寺の住持も勤め、黒田家との関連もたいへん深い禅僧です。宗玩の博多・福岡での活動を、その伝記・語録などを用いて、再構成してみます。特に、宗玩に縁がある興徳寺（姪浜）の山門額が、京都大徳寺における朝鮮通信使との文化交流の結実であることを論じてみます。
渡辺亮一　教授 （福岡大学）	博多（福岡市内）で何故、都市型水害が頻発するのか？その解決方法は？
	福岡市内の水事情について考察し、福岡市内で毎年のように発生している都市型水害の発生メカニズムとその抑制方法を水資源の観点から見ていきます。また、新たに考案した雨水利用実験住宅について、どの程度の効果を発揮するかについて詳しく説明します。
	博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」
	博多を流れる川がすべて流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。
黒木俊秀　教授 （九州大学）	夢野久作「ドグラ・マグラ」に読む大正・昭和初期の博多文化
	1935 年、夢野久作（本名、杉山直樹。父親は、玄洋社の杉山茂丸）が発表した長編小説「ドグラ・マグラ」は、我が国を代表する怪奇小説として知られている。本作の舞台は、大正から昭和初期の博多であり、当時、九州日報の記者であった作家は、九州帝国大学医学部精神病学教室を頻繁に取材に訪れていた。本講義では、「ドグラ・マグラ」の背景を読み解き、そこに東京と比肩すべき高い水準にあった往時の博多文化の香りを味わってみたいと思う。
山根明弘　准教授 （西南学院大学）	博多湾周辺の自然（「漂着物学」と「ネコ学」）
	博多湾周辺の海岸には、様々な漂着物が打ち上げられる。それらは、遠く南の島より黒潮によって流れ着いたヤシの実であったり、丸木舟などの異国の人々の生活の道具、アオイガイやウミガメなどの近海の海に棲む生き物たちなど様々である。海岸はいわば、文化的、自然史的な資料が集まった、屋外の博物館のような場所である。漂着物採集の魅力についてお話しする。次に、玄界灘に浮かぶ相島は、人と猫が理想的なかたちで共存をする島として、海外からも注目されている。演者のノラネコの研究も含めた、相島でのネコ学について、お話しする。

＜平成２７年度＞

講　　義　　内　　容	
磯　望　教授 （西南学院大学）	「博多湾の環境変動と福岡・博多の地形・土地利用の変遷」
	博多駅からサンセルコに向かう大博通りを歩くと、意外に起伏があります。これらの起伏は縄文海進から現在にかけて、海水準などの地球環境変動に人の営みが加わって形成されてきたものです。発掘調査の成果などから、最近の約 2 万年間に生じた地球環境変動で、福岡・博多で生じた地形・土地利用の変遷について検討した成果について紹介します。
松隈美紀　准教授 （中村学園大学短期大学部）	博多の郷土料理と食文化①
	福岡市内で食べられている四季のふるさとの味、郷土料理などの歴史や、言葉の意味、作り方と分量などを説明することで、自分の住んでいる町の歴史を理解し、地元の食材の知識や大切さを知ることができ、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明する事ができるようになる事を目的とし、以下の講義を行います。 博多の正月料理 博多の春の料理 博多の夏の料理 博多のまつりと料理
	博多の郷土料理と食文化②
	福岡市内で食べられている四季のふるさとの味、郷土料理などの歴史や、言葉の意味、作り方と分量などを説明することで、自分の住んでいる町の歴史を理解し、地元の食材の知識や大切さを知ることができ、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明する事ができるようになる事を目的とし、以下の講義を行います。 博多の秋の料理 博多の冬の料理 博多の朝ご飯 昔ながらのおやつ
宮崎克則　教授 （西南学院大学）	1800 年ころ 古地図のなかの福岡・博多
	福岡藩家老の三奈木黒田家に伝来した「福岡城下町・博多・近隣古図」は、縦 223 ㎝×横 226 ㎝の大きさであり、江戸時代後半の福岡・博多の様子を描いています。これには、和歌なども書き込まれ、福岡・博多の歴史や文化に関する豊富な記述があり、侍屋敷には武士の名前、さらに一部には石高や家紋まで書き込まれています。 博多は中世期より中国や朝鮮との貿易を通して栄え、島井宗室や神屋宗湛など多くの商人を生み出す貿易都市として繁栄していました。福岡は、慶長５年（1600）の関ヶ原戦の後、豊前中津から移ってきた黒田長政によって建設された新都市です。絵図を読み解き、併せて福岡・博多の変遷を考えていきます。
渡辺亮一　准教授 （福岡大学）	博多（福岡市内）で何故、都市型水害が頻発するのか？その解決方法は？
	福岡市内の水事情について考察し、福岡市内で毎年のように発生している都市型水害の発生メカニズムとその抑制方法を水資源の観点から見ていきます。また、新たに考案した雨水利用実験住宅について、どの程度の効果を発揮するかについて詳しく説明します。

	博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」
	博多を流れる川がすべて流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。
坂上康俊　教授 （九州大学）	奈良平安時代福岡平野の村落景観
	福岡平野とその周辺には、特に弥生時代以降、多くの人々が暮らし、村落を営んでいました。しかし、福岡市教育委員会がこれまでに発掘調査した成果をまとめた千数百冊にのぼる報告書を通覧してみると、村落には消長があったことがわかります。特に顕著なのは9世紀における集落遺跡の激減です。実は、こういった現象は、１世紀ほどの差はあるものの全国的に見られることです。発掘によって明らかにされたこの現象をどのように解釈したら良いのか、さまざまな考え方を紹介しながら、特に人口変動の可能性について、文献と照らし合わせながら検討します。
田北雅裕　講師 （九州大学）	博多のまちづくり～あらたな実践～
	2011 年に博多駅ビルがリニューアルし、さらに周辺の再開発や地下鉄延伸の話題もあり、注目度の高いエリアとなってきた博多。本講義では「まちづくり」とは何か、その基本的認識を共有した上で、博多部でのあらたなまちづくりの実践を概観し、その取り組みを改めて評価してみます。

＜平成２６年度＞

講　　義　　内　　容	
宮崎克則　教授 （西南学院大学）	1800 年ころ 古地図のなかの福岡・博多
	福岡藩家老の三奈木黒田家に伝来した「福岡城下町・博多・近隣古図」は、縦 223 ㎝×横 226 ㎝の大きさであり、江戸時代後半の福岡・博多の様子を描いています。これには、和歌なども書き込まれ、福岡・博多の歴史や文化に関する豊富な記述があり、侍屋敷には武士の名前、さらに一部には石高や家紋まで書き込まれています。 博多は中世期より中国や朝鮮との貿易を通して栄え、島井宗室や神屋宗湛など多くの商人を生み出す貿易都市として繁栄していました。福岡は、慶長５年（1600）の関ヶ原戦の後、豊前中津から移ってきた黒田長政によって建設された新都市です。絵図を読み解き、併せて福岡・博多の変遷を考えていきます。
渡辺亮一　准教授 （福岡大学）	博多（福岡市内）で何故、都市型水害が頻発するのか？その傾向と対策
	福岡市内で毎年のように発生している都市型水害の発生メカニズムとその対処法についてお話します。 また、新たに考案した雨水利用実験住宅について、どの程度の効果を発揮するかについて詳しく説明します。
	博多湾の水質環境について、「豊かな再生を目指して」
	博多を流れる川がすべて流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話しします。
磯　望　教授 （西南学院大学）	「地球環境変動と福岡・博多の地形・土地利用の変遷」
	博多駅からサンセルコに向かう大博通りを歩くと、意外に起伏がある。これらの起伏は縄文海進から現在にかけて、海水準などの地球環境変動に人の営みが加わって形成されてきたものである。発掘調査の成果などから、最近の約２万年間に生じた地球環境変動で、福岡・博多で生じた地形・土地利用の変遷について検討した成果について紹介する。

松隈紀生　教授 （中村学園大学短期大学部）	博多の郷土料理と食文化①
	博多の正月料理（博多雑煮、がめ煮、ぬたえ、七草汁）、博多の春の料理（シロウオ、ひなまつり、タイ飯、あぶってかも）、博多の夏の料理（アジの博多おし、あちゃら漬け、タラワタ）、博多のまつりと料理（どんたく、山笠、放生会）
	博多の郷土料理と食文化②
	博多の秋の料理（ごまサバ、カマスの姿鮨、だご汁）、博多の冬の料理（鶏の水炊き、もつ鍋、鶏ちり、イワシの湯豆腐、鍋具、せんぶきまげ）、博多の朝ご飯（おきゅうと、高菜の油炒め）、博多のおもてなし料理（吸い物膳）、昔ながらのおやつ
井手誠之輔　教授 （九州大学）	博多禅とその美術
	九州博多には、扶桑最初禅窟を掲げる栄西が開創した妙心寺派の聖福寺をはじめとし、圓爾弁円が開創した東福寺派の承天寺、西都法窟の額をかかげ、南浦紹明以降、大応派の基礎となった崇福寺などが所在し、京都・鎌倉で大きく花開いた禅林文化の一翼をになってきた。この授業では、絵画資料を中心に博多の禅宗寺院に伝来する作例をとりあげ、個々の伝来品を、制作当初の場・人・モノとの関係性の文脈へと戻しながら、博多における受容の意義や東アジア地域における美術の流通や変容について考えていく。
神野達夫　教授 （九州大学）	地震防災学から見た博多
	日本は世界でも有数の地震国であり、特に近年、大地震が頻発している。また、南海トラフ沿いの巨大地震や福岡市直下の警固断層における地震などの発生も危惧されており、地震によるリスクは非常に高まっている。そこで本講義では、地震の活動期に入った日本を生き抜くために必要な地震に関する基礎知識とともに南海トラフ沿いの巨大地震や警固断層が活動した際の博多地域における地震動や被害に関する最新の知見について解説する。

４．これまでの履修者・単位認定者数

平成２６～令和７年度　「博多学」履修登録者・単位認定者数一覧

		九州大学	西南学院大学	中村学園大学	福岡大学	福岡歯科大学	計
令和７年度	履修登録者数	29	4	15	5	7	60
	単位認定者数	20	3	13	3	5	44
令和６年度	履修登録者数	20	4	8	7	19	58
	単位認定者数	19	1	6	5	14	45
令和５年度	履修登録者数	18	3	8	9	4	42
	単位認定者数	14	2	5	6	4	31
令和４年度	履修登録者数	27	17	13	2	7	66
	単位認定者数	20	8	10	2	4	44
令和3年度	履修登録者数	41	9	11	17	11	89
	単位認定者数	33	7	7	10	9	66
令和2年度	履修登録者数	30	8	13	5	8	64
	単位認定者数	26	4	11	3	1	45
令和元年度	履修登録者数	9	4	5	5	35	58
	単位認定者数	9	4	3	3	26	45
平成３０年	履修登録者数	8	6	18	6	10	48
	単位認定者数	7	4	18	3	6	38
平成２９年度	履修登録者数	17	4	16	8	37	82
	単位認定者数	10	2	11	6	31	60
平成２８年度	履修登録者数	27	7	12	12	43	101
	単位認定者数	24	7	11	8	39	89
平成２７年度	履修登録者数	44	1	10	25	40	120
	単位認定者数	36	1	9	25	30	101
平成２６年度	履修登録者数	5	11	28	5	12	61
	単位認定者数	5	9	19	4	4	41

5．受講した学生からの意見

＜現地見学について＞

- 自分が住む地域を知る良い機会となった。
- 他の施設に興味を持つきっかけとなった。
- 普段入れないような場所にも入れ、貴重な話を聞くことができた。
- 身近な場所だからこそ意外と知らないことが多く、新しい発見をすることができた。
- 現地でその専門の人の話をきくことができ、ためになった。
- 実際に大きさを見て、触れて、五感で感じたことで対象に潜む真実がより理解できた。
- 博多の町並みを見て回る感じはとても良かったので続けてほしい。また、町の中にある店などの人の話を聞けるというのが印象的だった

＜集中講義について＞

- 他大学と合同で色々な先生の授業がオムニバス式の授業があるのは新鮮だった。
- 五つの大学の先生の授業が受けられ各大学の雰囲気まで想像できて楽しかった。
- 博多の魅力だけでなく、危機を感じる授業もあり、ためになった。
- 自分が生まれる前の歴史や昔から伝わるものなど新しい発見があった。
- 多くの角度から博多について学ぶことができた。
- 歴史・文化・地理・環境とバランス良く授業が設定されていた。
- 福岡の成り立ちや郷土料理など福岡についてある程度説明できるようになった。
- 「博多」という一つのテーマで、多方面からアプローチすることができて興味深かった。また講義間に意外な接点などを発見することができて楽しかった。

＜グループディスカッションについて＞

- 他大学の学生と話す機会を設けてあり、交流することができた。
- 自分以外の意見を聞けたことにより、講義の内容を整理することができた。
- 自分が授業内で感じたこととは違う意見や正反対の意見が多くあり、発想を広げるための良い機会になった。
- たくさんの人と仲良くなれた。
- 初対面の人とのディスカッションだが、短時間でまとめる力が身についた。
- 相手の自由な意見を聞けたり、相手を納得させるための事例を挙げながら話したりすることの大切さを学ぶことができた。
- 社会人になるとリーダーシップを発揮しなければならない場面が多いので、このような機会はありがたいと思った

地元密着「博多学」が人気

5大学合同で開講

歴史・文化・食…肌で知る

まなびの現場

「博多学」。歴史や自然、食などさまざまな面から博多について学ぶ授業を、九州大など福岡市内の5大学が合同で開講している。集中講義で学ぶほか、遺跡や神社、焼き物の窯元にも足を運び、歴史や文化を肌で知ることもできるユニークな内容。通常の授業と同じように単位ももらえる。6年目の今年度は100人を超す学生が受講するほどの人気だ。

江戸時代の福岡城周辺のジオラマを前に市の担当者（左端）の説明を聞く学生たち＝福岡市中央区

共同で開講しているのは九州大、西南学院大、中村学園大、福岡大、福岡歯科大。2006年に5大学による西部地区五大学連携懇話会が発足。10年度に「博多学」の授業を始めた。懇話会の教育ワーキンググループ長を務める九州大の丸野俊一副学長は「学生が地元のことを学び、自分の言葉で説明できるようにすることがねらい」と話す。

PRし参加増

これまで5大学で60～90人台だった受講者が今年度は124人に増えた。昨年度は5人だった福岡大は28人に。学生にこの授業のことをもっと知ってもらうために、教務課が昨年12月ごろからポスターでPR。その効果が表れた形だ。

「博多学」は4、5月に4回、現地見学がある。学生はいずれか1回に必ず参加しなければならない。

今年度の1回目は4月25日にあり、18人が参加した。福岡歯科大が単独で開講している「福博の歴史と文化探訪」の受講者と一緒に福岡市中央区の鴻臚館跡展示館などを訪れ、中国大陸や朝鮮半島からの外交使節や商人をもてなした鴻臚館や福岡城について、市の担当者から説明を受けた。市博物館では福岡の歴史をたどる展示を見て回った。

九州大3年の杉田真菜さん(22)は美術史を学んでいる。「大陸からの文化の受容の仕方は、京都と博多とでは違う。博多の歴史を詳しく知りたいので受講しました」。福岡歯科大1年の戸田菜月さん(19)は食に興味があって受講したという。「大陸に近い福岡は交易が盛んだったことがよくわかりました」

単位もらえる

今後の現地見学では元寇防塁跡、筥崎宮、高取焼窯元、博多の食と文化の博物館などを訪ねる。

8月には3日間、九州大で集中講義がある。中村学園大の教員は「博多の郷土料理と食文化」、九州大の教員は「博多のまちづくり～あらたな実践」と、各大学が得意とする分野を担当。締めくくりには受講者によるグループ討議がある。その後、リポートを提出し、合格すれば単位が与えられる。

1年目から博多湾の水質環境や福岡市での都市型水害の傾向と対策について教えている福岡大の渡辺亮一准教授（河川工学）は「向学心が強い学生が多い」という。

九州大の丸野副学長は「5大学の学生が一緒に学んで議論し、多様な見方にふれることができるのも良い」と話す。「地元に貢献する人材の育成につながればうれしい。そのためにはまず、この授業を通して博多を愛してほしい」（宮崎健二）

『朝日新聞』 2015年5月13日朝刊 28面　　承諾書番号 A15-0845